

Gather

発行者：二丹 歩

最上級学年スタートです！



最上級生になりました！

4月8日（木）新学級や新担任の発表への期待と不安を抱きながら、なんとなく緊張した様子で登校しました。旧学級での新クラス発表では、ファイルの色を見せ合い、喜んだり、盛り上がっていたりしました。新学級へ移動した後は、さすが3年生。素早く体育館へ入場、整列を完了し、後輩たちのよき手本となっていました。着任式で本年度より加わった新しい先生方と出会いました。始業式では、新しい担任の先生と出会いました。今年1年間をすばらしいものにできるよう、みんなでこの出会いを大切にしよう。



保護者の皆様、今年度は、引き続きコロナ禍の中での生活となりますが、できることを生徒と職員が一体となり考えていきたいと思います。また、進路や受験など不安を抱えることもあるかもしれませんが、より連携を密にとりながらご家庭に寄り添っていきます。まずは、忙しく慣れるまでストレスの多い4月を明るく元気に過ごせるよう陽北中学校スタッフ一同、精一杯がんばりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

学年集会行いました

4月12日（月）5・6校時に3年進級後初めての学年集会を開きました。新しい日程での生活からか、開始時間が遅れてしまったことを新学級委員長さんたちは、しっかりと反省しており大変立派でした。集会の内容は、どれも大切なことばかりでした。二丹から、「温かい学年をつくるために何ができるか」ということを考えてもらいました。私は「言葉かけ」が全てだと話しました。「何気ない言葉かけ、言葉のやり取りを意識しながらやっていくこと」を通して、全員にスポットライトの当たる素敵な学年にしていきたいと思います。あいさつや反応、返事など言葉に出してやり取りをしていくことで他を認め、お互いを大切にしていく心を育てます。ご家庭でも、話題に出し、考えていただけるとありがたいです。



「子どもに『決断』の経験を積ませる」

早いもので、子どもたちは中学3年生になりました。大人と子どもの境目にあったり、体と心の成長バランスにばらつきがあったりと不安定で難しい時期だと思います。最近、世間では「ブラック校則」などと言われ学校教育についても過渡期を迎えています。そんな中、私たち大人も、子どもに対する接し方について見直さなければならないと思います。人は手をかけすぎると自分で問題を解決する力を失います。人から言われたことをやって失敗すると人のせいになります。これは大人でも全く一緒です。日本の高校生は、世界の中でも「国や社会に対する意識」が低いという調査結果がでています。「将来の夢を持っている」という項目では、インドや中国、インドネシアが95%を越えているのに対し、日本は60.1%です。日本では、大人が子どもたちにサービスしすぎて主体性を失ってしまっているのかもしれませんが。学校ではできる限り子どもたちにいろいろな経験をさせ、選択をさせ、決断をさせていきたいと考えています。小さな決断でも、2択でも、子ども自身が自分なりに結論を出していくことで成長していくのではないかと思います。